

自然システム学専攻		研究分野	地球物理学	Lab. ID
研究室Webサイト		平松良浩	<a href="http://hakusan.s.kanazawa-u.ac.jp/~yoshizo/official/japanese/j_index.html">http://hakusan.s.kanazawa-u.ac.jp/~yoshizo/official/japanese/j_index.html</a>	NS17
		隅田育郎	<a href="http://hakusan.s.kanazawa-u.ac.jp/~sumita/">http://hakusan.s.kanazawa-u.ac.jp/~sumita/</a>	
		遠藤徳孝	<a href="http://earth.s.kanazawa-u.ac.jp/EndoLab/">http://earth.s.kanazawa-u.ac.jp/EndoLab/</a>	
<b>研究課題の概要</b>				
地球物理学グループでは、地球や惑星で起こるダイナミックな現象を理解するために、モデル実験や観測データ（地震波形、重力異常、地形など）の解析、数値シミュレーションなどを用いて、地震・火山現象、粉粒、複雑流体が関わる現象の物理の解明、地球や惑星の地形の発達過程などに関する研究を行っています。				
<b>博士前期課程/後期課程院生の指導方針、具体的なカリキュラム、研究室での活動等</b>				
博士前期課程や博士後期課程での研究テーマについては、本人の希望を尊重し、指導教員と相談の上、決定します。博士前期課程では標準の授業に加えて、各研究室やグループ全体のセミナーで研究報告や英語論文の紹介などを行います。研究成果については、平均すると年に1~2回国内の学会で発表を行います。さらに、博士前期課程在学中に研究成果を国際学会で1回は発表することや学術論文として投稿することを推奨しています。博士後期課程では標準の授業の他、各研究室およびグループ全体のセミナーで発表を行います。また、定期的に関催される国内外の学会で積極的に発表することが求められます。博士論文を提出するためには、英文国際誌への学術論文の発表が必須です。				
<b>研究室生活の紹介等(院生からのメッセージ)</b>				
<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 計算機や実験装置などには不自由することなく、充実した研究を行うことができます。</li> <li>・ 先生との距離が近いので、研究に関するアドバイスなどが得られやすい環境にあります。</li> <li>・ 研究に関しては先生との立場が対等で、意見などが言いやすい環境です。</li> <li>・ 学生一人一人の性格を見て、適した接し方をしてくれるので、自分のペースで研究ができます。</li> <li>・ 学生同士でも学年関係なく仲が良かったため、研究だけではなく私生活でも近い距離にあり楽しく毎日を送ることができています。</li> </ul>				
<b>教員からのメッセージ</b>				
研究室に所属する院生に求められることは、自発的に研究に取り組むことです。大学院での研究活動を通じて、自ら課題を設定し、それを解決し、結果をまとめ、他者に分かるように発表する能力が身に付くでしょう。他大学から博士前期課程に入学してくる人はときどきいます。社会人で博士課程に入学する人もいます。博士前期課程修了後は、公務員、情報系・資源系などの民間企業に就職する人が多いです。博士後期課程に進学する人もいます。博士号取得後は国内の研究機関の博士研究員を経て、公的機関の専門職や民間企業に就職しています。				
<b>最近(過去3年間+必要に応じて)の修士論文題目</b>				
修了年月	タイトル			
2018.3	ベースレベル低下による岩盤河床流路の形状変化と岩盤強度との関連性:モデル実験による検証			
2018.3	マグマだまりにおける固化過程のモデル実験			
2018.3	南極昭和基地で記録される氷震微動の時空間分布			
2018.3	新潟-神戸歪集中帯北東部の coda Q の時空間変化			
2018.3	間隙水圧と比抵抗測定による液状化過程のモニタリング			
2018.3	CAESAR Modelを用いた穿入蛇行のシミュレーション			
2017.3	鉛直振動下における粉粒体斜面の不安定性			
2017.3	月衝突盆地下のモホ面構造の地域性とその成因			
2017.3	傾動を伴う河川地形の発達プロセス: 屋久島と室内実験			
2017.3	Valley networkの流域形状解析による火星の地形発達評価:古気候への示唆			
2017.3	西南日本下のプレート境界遷移領域における平均すべり速度の再推定と深部低周波微動の励起効率の不均質性			
2016.3	粘弾性母岩内におけるマグマ輸送のパラメータ依存性			
2016.3	粉粒体斜面に対する低速度衝突クレータリング実験			
2016.3	重力異常解析に基づく東日本に発達する逆断層帯の解明			
2015.3	振幅-継続時間分布とscaled energyの空間変化から推定される西南日本での深部低周波微動の特徴			
<b>最近(過去3年間+必要に応じて)の博士論文題目</b>				
修了年月	タイトル			
2018.3	InSAR解析による地すべり変動の検出			
2018.3	重力異常を用いた活断層の構造解析			

2017.3 | 能登半島北方沿岸の海底活断層の活動履歴の解明

研究室連絡先メールアドレス

平松良浩 <yoshizo \*at\* staff.kanazawa-u.ac.jp>  
隅田育郎 <isumita \*at\* staff.kanazawa-u.ac.jp>  
遠藤徳孝 <wisteria \*at\* staff.kanazawa-u.ac.jp>  
青木賢人 <kentaoki \*at\* staff.kanazawa-u.ac.jp>